

1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0873400352		
法人名	社会福祉法人 保内園		
事業所名	グループホーム のどか		
所在地	茨城県久慈郡大子町矢田1247-2 (電話) 0295-72-6051		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年7月31日	評価確定日	平成20年11月12日

【情報提供票より】(平成 20 年 7 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 16 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.5 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	11,500 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	950 円	

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.1 歳	最低 79 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	久保田病院 ・ 齋藤歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは久慈川の近隣にあり、山に囲まれた自然豊かな場所に位置している。自然の環境の中で、利用者は個々のペースを大切に、人々に触れ合いながら生活している。穏やかで明るい表情から、利用者と職員が共に生活し、健やかな生活を築いているという印象を受ける。また、利用者のお互いの小さな心づかいは、ほほえましい光景である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受け、意見箱をホームの外に設置したり、地域との交流の向上のために職員と協力しながら改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に意見を聞きながら管理者が作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者の活動状況、ホームの取り組みなど報告されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月刊のどか便りを発行し、生活の様子を知らせている。また、月に1回、家族との昼食会を開催し、家族の意見等聞けるような環境設定している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームイベントへの地域住民の参加、ボランティアの受け入れなどが行われている。散歩や外出時の挨拶など日常的な関わりを持っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中の家として、自然にその人らしく暮らし続けていく事を理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、ミーティングで復唱し、ゆったりとした生活が出来るように支援を心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会、盆踊り等隣接の施設で、地域の方を招待して交流を図るようにしている。来年からは、地元の高校生の実習場所として、受け入れを検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の意見を聞き評価した。評価することで、改善点等が見えて、職員と管理者の話し合う機会になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は2回開催。町の職員、区長、家族代表等参加されている。	○	運営推進会議の話し合った議事録を職員に伝達することで、サービスの向上に生かしていただきたい。

茨城県 グループホームのどか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者から情報交換に努め、ホームから積極的に働きかけている。		のどか便りを活用しながら市町村との連携を密にし、今後のサービス向上に努めていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	のどか便りを発行している。定期的な家族との食事会、面会時に報告している。緊急時は、その都度、電話報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との食事会を開催して、意見等聞く機会を設けている。苦情はなく、意見等はその都度言われてくるため、職員に伝達して解決している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者と新職員が一緒に勤務する期間を作り、利用者の混乱を避けるように心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は出来る限り、参加できるようにしている。内部研修は月1回行い、ケアの向上につなげていけるよう努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣町のグループホームとの交流が時々ある。また、研修に行った時に交流ができるよう声かけしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所は空室があれば考える。見学は行っている。家族からの相談があれば、情報提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔からの慣わしや戦争の体験等、教えてもらいながら、喜怒哀楽を共にして、学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思い、家族の意向も聞きながら遂げられるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から情報を得て、介護計画を立案している。職員からの意見等も計画に反映できるようになってきている。		介護計画が立案されているが、活用されている記録が少ない。記録との連動を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間が決められている。カンファレンスで話し合っており、追加計画をあげている。	○	話し合ったことを、記録に記入し、職員が全員理解できるように検討することを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域住民の相談事に対して、サービスにつなげている。出来る限り柔軟な対応が出来るよう心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診の支援ができています。入居前のかかりつけ医が継続できるよう支援ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に関しては行っていません。家族にはきちんと説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活のあらゆる点で配慮がみられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのゆっくりした生活を大切にケアが提供されている。利用者の希望は出来るだけ、沿うように心がけている。		

茨城県 グループホームのどか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から始まり、出来るところを、利用者の力を活かしながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせて入浴支援ができています。毎日夕方に入浴されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのペースや趣味を尊重して支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞きながら、外食や喫茶店、散歩など取り入れ、外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、自由に外との行き来が出来る。夜間は防犯のため施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は3ヶ月に1回ホームで行っている。近日中にスプリンクラーを設置する予定である。備蓄に関しては、隣接施設と共同で行っている。		隣接施設との共同での避難訓練をすることで、地域の協力を受けられる体制の基盤づくりを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや利用者の状態に合わせて、摂取できるように支援されている。	○	食事量や水分量に関して、一人ひとり記録があると、体調変化を把握することが出来ると考える。今後、職員間で話し合い、考えて、異常の早期発見につなげていただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、広く、窓際には畳が置いてあり、いつでもくつろげるようになっている。光彩の取り入れは簾を活用しながら工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使っていた馴染みの家具や仏壇などが置かれている。居室は、利用者の好みに合わせて、畳にしたり、ベッドにしたり出来るようにしている。		